

平成18年度スジアオノリ養殖概況

横手孝英

平成18年度漁期の概況は、吉野川では例年どおり10月上旬から天然採苗が開始された。高水温などによる生産量への影響が心配されたものの、漁期全体としては大幅な減少には至らなかった。価格は一昨年の不作による在庫不足の影響などにより比較的高値で取引された。平成18年度漁期の共販数量59トン、金額4.5億円であった。

1 人工採苗用の母藻の生産と配布

川内、応神、徳島市第一、渭東、徳島市辰巳、今津漁協へ母藻を配布した。配布母藻は吉野川産広域温度対応株（Y1124）であった。

2 平成18年度漁期の共販結果

図1に平成18年度、17年度の徳島県漁連共販数量を示した。図2に年度別共販数量と平均単価の推移を示した。平成15年度までは生産過剰気味で平均単価も4千円を下回ったが、一昨年の大不作以降高値が続いている。

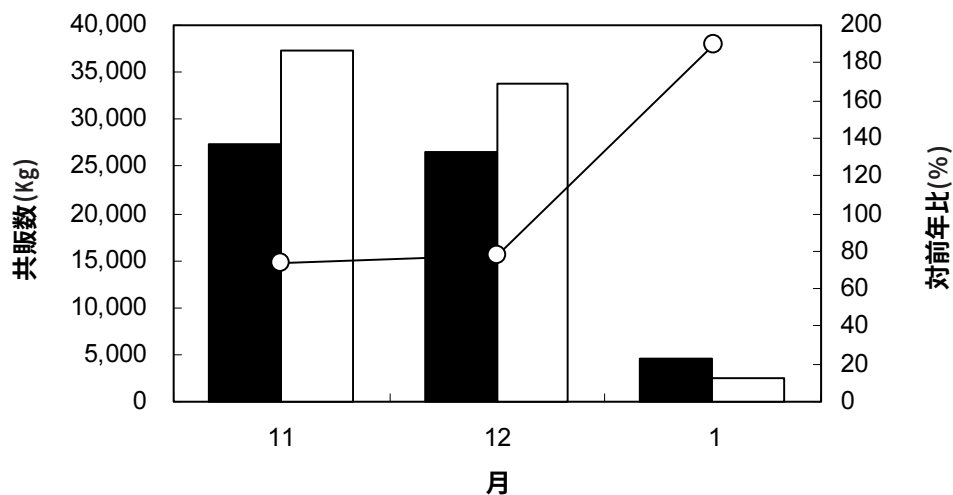


図1 月別共販数量の推移。■，平成18年度；□，平成17年度；○，対前年比

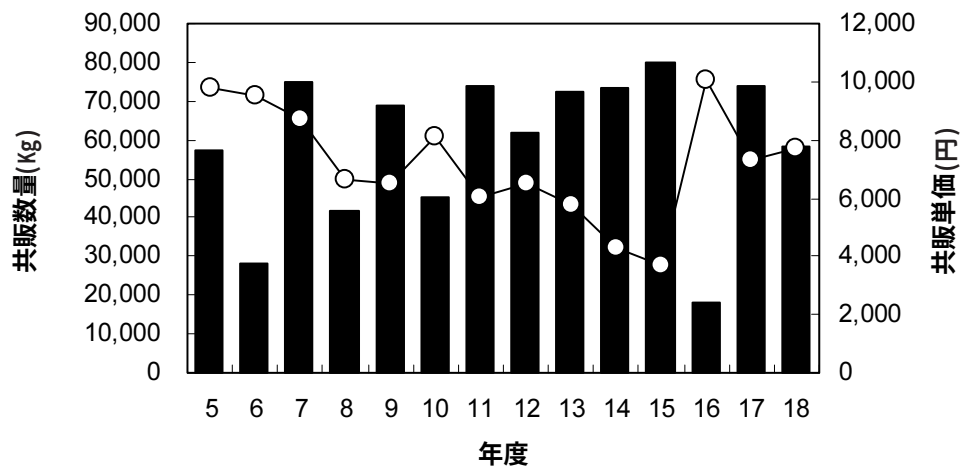


図2 年度別共販数量と平均単価の推移。■，共販枚数；○，共販単価